



Navigator //

モザイクタイル

MosaicTile の散歩道

Vol.9

感謝と挑戦のTYK体育館（大畑町）

美濃焼タイルとまちの素敵な出会い。

昭和50年代は、全国的に公共施設が多数建てられた時代でした。多治見でもバロー文化ホールや公民館など複数の施設が建ち、外壁にはタイルを使用。加えて、同時期に各地で盛んになったやきものによる装飾壁、すなわち「陶壁」が設置されます。

感謝と挑戦のTYK体育館もそんな時代を表す建物。市内のスポーツ人口急増に伴い、昭和60年、市制45周年事業として南ヶ丘中学校跡地に竣工しました。基本計画に市民の声を取り入れ、多治見らしさを表すためとして大量の美濃焼タイルが使われます。外装には、土岐にあったメーカー、開山インターセラムによる明るい土色の湿式タイル。館内は加藤卓男氏、中島晴美氏といった陶芸家による陶壁で彩られ、外周の河岸にも川上智子氏、猪倉高志氏デザインのタイルを使った陶壁が設置されました。コールテン鋼の屋根を含めて当時の多治見の勢いが感じられます。

モザイクタイルミュージアム

学芸員 村山 閑

※本連載では、市内に点在する美濃焼タイルを使った建造物を紹介します